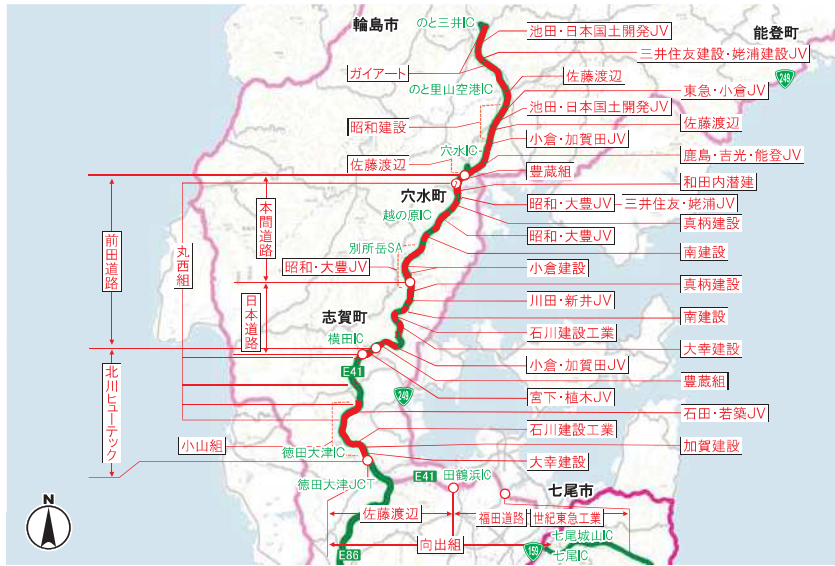




令和6年能登半島地震
「令和6年奥能登豪雨」で被災したインフラ施設の本復旧が加速している。北陸地方整備局が9月1日までに発注（現場着手）した道路、河川・砂防・海岸・地すべり関係の本復旧工事は計88件で、5月1日時点と比べて11件増加している。施工者も7社増の59社に達しており、受発注者の総力を挙げて被災地再建に取り組んでいる。

本復旧工事のインフラ種類の内訳は、道路関係が76件、河川・砂防・海岸・地すべり関係が11件、電気通信関係が1件。このうち、「R6金沢河川国道舗装復旧工事」と「R6能越道別所岳等配電線路復旧工事」などは完了している。

これらの工事には石川県内企業31社、県外企業28社が携わっている（単体・JV合算）。道路関係については国道249号が29件、能越自動車道などが40件、維持関連は7件となっている。

また、震災復旧業務・工事

の受注者と、日本建設業連合会、建設コンサルタンツ協会、全国測量設計業協会は、同局との災害協定に基づく対応（緊急・応急復旧）を並行して進めている。

